

〔国際会議発表〕

発 表 研 究 者	東京大学大学院情報理工学系研究科 博士課程 中村 友彦	2042111
参 加 会 議	The 15 th International Society for Music Information Retrieval Conference	
出 張 期 間	2014 年 10 月 26 日～11 月 1 日	
開 催 場 所	台湾・台北	
発 表 論 文	Harmonic-temporal factor decomposition incorporating music prior information for informed monaural source separation インフォームドモノラル音源分離のための音楽事前情報付き調波時間因子分解法	

概 要：

当該会議は、音楽に関わる情報処理および信号処理の研究者が一堂に会する音楽情報処理のトップ会議の一つであり、音楽情報検索のコンテストである Music Information Retrieval Evaluation eXchange (MIREX) も最終日に開催される。人間は混在する複数の音の中で個々の音源を聴き分けることができる。この能力を計算機で実現できれば、音メディアの検索・推薦など人々の生活を豊かにするシステムの基礎技術となりうる。そのため、我々はこの実現に必要なモノラル音楽音響信号から各音源の音響信号への分離（音源分離）に取り組んできた。この会議への参加目的および意義は、1）人間の聴覚機能に着目したアプローチとスパース信号表現に基づくアプローチの利点を兼ね備えた提案法を多くの研究者に紹介し議論すること、2）最新の音楽情報処理や信号処理の研究動向を探ること、3）来年度の博士号取得に向けた発表実績を積むこと、の3つである。

当会議への参加者は去年よりも大幅に多かった。私自身の発表はシングルトラックのオーラルセッションで行われたため、多くの研究者に提案法を紹介することができた。また、質疑の時間は短かったものの海外の研究者から質問を受けたことから、国外の研究者にも興味を持てただけたようである。また、発表後に数人から質問やコメントをいただき有意義な議論ができたことも成果である。また、以前に我々が提案した手法と類似した研究が紹介されていたり、今後の研究でも利用できる大規模データベースの情報が公開されており、情報収集としても有意義な会議であった。MIREX でも提出された手法についてポスター発表があり、それぞれのタスクについて性能やアプローチを調査できた。